

予測の検討	加賀(九州林産)
29. 東部カリマンタンにおける森林調査システムの効率分析	ソエイトノ(九大農)他1
30. 林分構造と地形の関係解析に関する研究(1)	吉田(九大農)他2
31. 空中写真の利用による森林の公益的機能の計量法に関する研究(V)	山崎(九大農)他2
32. 照査方式間伐による林分構造の解析	清水(九大農)他2
33. 世界主要国における森林調査体系について(1)	西沢(九大農)

(他13部門180テーマ, 2特別講演)

## II. 各人の研究紹介など

### 1. フライブルグ, ブカレスト6月場所日誌抄

九大農 西 沢 正 久

6月9日(晴)晴, 福岡空港発9:40の日航機で成田へ。そして成田発11:30のソ連機アエロフロートに乗る。乗る前にダルマ2本, ピース1カートンを無税で買う。モスクワまで日本語で話し, 食事も待遇も前評判よりよい。モスクワ5輪のためか? モスクワで一休みしてその日の19:20にコペンハーゲン着。ハイヤーで SELANDIA HOTEL へ。ダルマを飲んで町を一まわり。

6月10日(土)雨後曇。観光バスに乗って古城, 博物館, 人魚姫の像などを見学。夕方中華料理店でチャーハン。チボリ公園でビール。

6月11日(日)曇後晴。昨日予め見つけておいたバスターミナルに歩いて荷物を持って行き空港へバスで行く。フランクフルトに着くと, フライブルグから Prodan 先生の所に留学されている宮崎大学の飯塚氏が出迎えに来ておられる。有難い。地下鉄でフランクフルト駅へ。駅でビールを立飲みして車でフライブルグに4:30 pm 着。夕食を丘の上のレストランで二人でとる。飯塚氏体調が悪いとのことで早々に山を下る。CITY HOTEL で Warren に会う。ニュージーランド以来久しぶりである。彼はカナダに移り, 今は今回の統計部会のリーダーである。北村先生と同じホテルで一安心。これからフライブルグ場所の始まりである。 (○)

6月12日(月)晴後雨。10:00 am 北村先生と大学の発表会場に着く。午後の発表に決る。木梨, 北村両先生は14日に決る。昼食にビールを飲んで景気をつけ, 無事終る。演題は“Dendrometry and Minicomputerization”である。夕方東大の箕輪君を出迎えて, 発表が終ったホット会と箕輪君の到着祝をする。 (○)

6月13日(火)晴。北村先生の発案で, 木梨先生と三人でフライブルグからポストバス(郵便馬車)に乗ってシュバルツバルトを北に4時間縦断し, フロイントシュタットに12時に着く。買物をして2

回汽車を乗りかえてフライブルグ着 5:40 pm。汽車の中の新聞で仙台の地震を知る。町で買物と夕食を共にして二人は明日の発表に備えて早々に宿舎に帰る。部屋でダルマ 2 本目に入る。 (○)

6月14日(水)晴。北村先生のアドバイスで木梨先生の日本における林業統計研究会のあゆみの発表を聞いて会場をぬけ出し、飯塚氏の案内で箕輪君と一緒にシャウエンスランドにケーブルで登る。森林を上からみる。快晴で気持ちが良い。3:40 pm に会場に帰る。6:00 pm CITY HALL でレセプション。終って木梨 北村、飯塚氏等と四人、フライブルグ大学の黄さん宅に招待される。10:30 pm 帰宿。 (○)

6月15日(木)晴後雨。木梨、北村、箕輪氏等と四人でバスの見学旅行に参加。ドナウエッシンゲンの製材工場見学。工場主がビール工場を営んでいるので、そこで遅い昼食。パンとビールは飲み放題。博物館を見て帰りはフェルトベルグとシャウエンスランド。雨となり昨日さぼっての見学は正解であった。7:40 pm フライブルグ着。Prodan 先生夫妻をわれわれで招待して会食の予定であったが、遅くなったため、飯塚先生一人で接待されているところに雨にぬれてかけつける。夫妻は大変喜んでおられた。 (●)

6月16日(金)晴一時雨。Dr. Prodan の退官記念講演会。奥さんを前にして奥さんに感謝される。午後、昨日着いた今永、木平両氏を入れて日本人だけで会食する。駅でスイス行き切符を買って郵便局でパンフレット類などの重いものを送って、北村先生の案内で林務官の店で帽子を買う。夜、Prodan 先生の招待を受け先生宅で御馳走になる。Matern 夫妻、Kozak Ek. A. R. 等の顔も見える。帰りわれわれ六人と音楽留学に来ている塩見嬢と一杯。 (○)

6月17日(土)曇後雨。いよいよフライブルグ場所は打上げて、次のブカレスト場所への移動である。木梨<sup>としより</sup>年老と箕輪太刀持、木平露払いは汽車でハンガリーを通過して行くが、横綱だけはチューリッヒから飛行機で行くことになっている。北村先生はブカレスト場所には不参加で、今永先生がお母さんと一緒にこれもやはり汽車で行くことになる。飯塚先生はフライブルグに残る。北村、飯塚両先生の見送りでフライブルグ駅へバスで行く。両先生には大変お世話になり、お蔭で快適なフライブルグ場所であった。10:23 am の汽車でチューリッヒに向う。駅でカナダの Lakehead 大学のオランダ人 Hazenberg 教授と一緒に。彼はブカレストには行かないが、昔 Zurich 大学に留学したことがあるのでいろいろ説明をしてくれ大変勉強になった。雨のためバーゼルを通過してチューリッヒに直接行く。駅で二人で昼食を済ませて別れる。雨の中を歩いて CONTINENTAL HOTEL に行く。一寸と休んで雨の町へ出る。土曜なので店は休み。中華料理店を見つけてギョーザで夕食。酒屋を見つけてジョニーウオッカーの中壘を買う。ホテルのベッドの上で浴衣を着てあぐらをかいてこれを飲みながらテレビのドラマ“コンピューター人間”を 0:30 am までみる。 (●)

6月18日(日)曇後晴。午前中一人で町を歩く。Obersee 湖畔に行き、帰りに市の博物館を見る。もちろん無料。1:35 pm の airbus で空港へ。Matern 夫妻とスイスの Schmid 博士と一緒に。ブカレスト着 19:40。兵隊による荷物の検査が厳しい。タバコをやると OK! 税関のイジワルバーサンの

顔は今でも覚えている。IUFROの大会関係者が出迎えにきて大会参加のためといったのでやっとバスと思ったら、こんどはドルをレイに換金した証明書をもう一度戻って取って来いという。証明書を持って行くとまた初めからやり直しでうんざりした。後日、町で多くの人がレイをドルに換えてくれと小さな声で寄ってくるので換金の件は後でやっとわかった。これからまた後が大変である。IUFROの関係者がハイヤーを手配するが観光客が多いため仲々見つからず、遂にわれわれ四人と後で大会参加のためきたイスラエル人(本当はルーマニア人)と五人だけが空港に残ってしまった。

DOROBANTI HOTELに着いたのが11:30 pm。あまつさえ降りる時、ハイヤーの運転手とSchmidがけんか。しかし100レイをとられる。フロントで木梨先生が着いているかと聞いたら着いていないといわれ少し心配になる。ハンガリー経由で汽車で昼頃着いている筈なのに。(●)

6月19日(月)晴。受付で登録したときリーダーのCuniaと会う。1974年6月アメリカの Syracuseでの大会で会って以来久しぶりである。オーストラリアのWoodと日本のNo Woodは未だ着かない。木平、箕輪両氏に朝食で会った時、二人はハンガリーからドイツ国境に連れだされたとのこと。Congress Departmentが大会のすべてをとりしきっているので、英独仏の同時通訳の設備が整っている。CuniaとMaginの森林資源調査についての開会講演があり、Cuniaの司会で、各国の実情と調査コストなどについて情報が交換された。日本では一貫した森林調査の考え方や実行がないので、仕方なく発展途上国は収穫保続のための森林調査が必要であり、再生産可能な森林資源の情報を得るためには世界が統一した定期的な調査が今後必要であることを述べた。夕方、昼頃無事到着した木梨年老と横綱、太刀持、露払いの四人で到着祝とブカレスト場所開会祝をする。(○)

6月20日(火)晴。一日中発表を聞く。退屈になると前のメキシコ人と目くばせをしたり、フィンランド人と話したりする。昼食には一行四人と後から着いた今永母子とドイツ人の七人で会食。夜は四人で木平、箕輪両君が開拓したレストランで痛飲。どうしてホテルに帰ったかわからない。後で、別なホテルに入りこみそこからDOROBANTI HOTELへの道順を地図を貰って帰ったことがわかる。(●)

6月21日(水)晴後雨。6:00朝食。7:003台のバスでStudy Tourに出かける。ドイツ語の通訳1台、英仏の通訳2台である。Snagov, Ploiestiを経てSinaiaでお茶。Poiana Tapuluiの2000mの高所にて下界を見る。Sinaia営林署管内の林業生産、保全とレクリエーションなど見学。Noouで遅い昼食。Brasovで林業経営、Noouで伐木現場、Cheiaで森林を見学してPloiestiで7:00pm。川のほとりでビールとパンを用意して待っている。ブカレスト着11:00pm。ハードスケジュールであったが精一杯見せてくれた厚意は有難い。(○)

6月22日(木)雨。SchmidとKusselaが座長。箕輪、今永、木梨、西沢、木平の順で発表。一同ホッとする。6:30pmより劇場でルーマニヤンダンスの観劇。意外によかった。ホテルに8:00pm帰り、また四人組で外に出かけ、10:00pm就寝。(○)

6月23日(金)晴。少し腹痛。箕輪君よりセイロガンを貰う。3:00pm学会発表全部終了。外に出てショッピングして8:00pmよりホテルの隣りのレストランでお別れパーティがある。メキシコのグル

ープとさわぐ。食事のコースが終ると外のテーブルで各国の歌を交換した。40カ国・約100人もの研究集会は盛会であり、日本人が5人も参加したのははじめてであろう。ブカレスト場所もまさに終わろうとしている。明日から横綱を除く年老以下若者は地方巡業に出発する。横綱はあと2日頑張らなければ日本には帰れない。(○)

6月24日(土)晴。木梨、箕輪両氏は飛行機でウィーンに発つ。仲良しのメキシコ人と共にホテルの前で記念写真を撮る。今永母子とルーマニアの Purcean 氏が植物園に案内してくれる。帰宿 12:30 pm。午後、今永母子が黒海沿岸に行き泳ぎたいといわれるのでお供をして切符を買いに行く。明日は早いのでチューリッヒで買ったウィスキーを全部空にする。(○)

6月25日(日)晴。ホテルを朝早く発って空港へ。メキシコの友人とまた会う。1981年の京都大会での再会を約す。8:55 amの飛行機でモスクワへ。モスクワ空港で買物。一路飛行機は日本に向う。(○)

6月26日(月)晴。成田着 10:45 am。バスで羽田に行き、4:40 amの飛行機で福岡着 6:25 pm。教室員全員の出迎えを受ける。これでフライブルグ、ブカレスト場所も仕上げである。地方巡業はどうだったろうか。感じだけの星とりも11勝4敗と、九州場所の15戦全勝の若ノ花には及ばないが、北の湖と相星、まあまあ成績といえよう。これからの若手の海外場所の成功を祈ってこの日誌を終る。

## 2. 森林の水土保持機能の評価に関する私感

九大農 竹下敬司

私達の住んでいる福岡市は、今年の春から異常な濁水に襲われ、市民生活がおびやかされている。これを契機に水源地帯である上流山岳地の水源かん養機能に対する社会的な関心もかつてないほどの高まりをみせている。水源かん養機能を含む森林の公益性機能については、環境保全上の見地から、最近、その具体的評価を行うべく調査研究が進められているのであるが、未だ、社会的な用語で、これを提示しうる段階となっていない。もし、森林の機能が現実に高いのであれば、これをアピールする絶好の機会とも考えられるのであるが、残念な現状である。

現在、社会でとりあげられている諸事業、計画、それらに伴う評価等は、その根拠を客観的な数値において行われていると考えられている。一方、森林の水源かん養機能等は、古くから言い伝えられ、広く誰でもが聞いている事柄であるにもかかわらず、それがとかくムード的であり、数量化されていないのが実情である。そのため、具体的な設計要素としては、とりあげられておらず、森林にタッチしている者としては、非常に口惜しい気がする昨今となっている。

山地流域での土や水の問題は、一面では、クールな物理現象と考えられるのであるが、それに関与する要因が、多数にのぼるため、それを総合する場合には、単純な物理現象としては取扱えぬ複雑な反面を持っている。つまり、部分的には物理的な数量知見を有するが、全体的には、確率的な数量化